



年頭にあたって

会長 中川可能作
会員の皆様、あけましておめでとうございます。
昨年新体制に変わり、皆様のご協力で会の活動も
順調に推移していると思います。

今年も例会などで会員講話を中心に互いに切磋
琢磨し目標会員 50 名をめざしましょう。金沢龍
馬会の皆様方の益々のご清栄と更なるご活躍をご
祈念申し上げます。



《第 26 回全国龍馬ファン 横浜大会集い報告》

日時：10月18日(土) 12:45～
会場：横浜大さん橋ホール交流会： 同日 18:30～
会場：パシフィコ横浜 屋外特設会場

この度横浜で全国龍馬ファンの集いが催されま
した。金沢龍馬会から5名参加しました。大会の
司会は金沢龍馬会東京在住でNHK アナウンサー
である福井慎二さんでした(奥様も参加)。名誉
なことです。

さりげなく新幹線開業の宣伝をしていただきま
した。石川県からの参加は朝日喜美子さん、周藤
英将さん、吉田信夫さんの3名でした。

下記は周藤さんの報告です。
10月18日(土) 横浜での「第26回全国龍馬
ファンの集い」に参加してきました。大棧橋のホ
ールには500人近くの方が訪れ、活気溢れる会場
でした。

午後1時の開会挨拶の後、講演、ミニコンサー
ト、演武、対談など様々なイベントがありました。

私は高知県の尾崎知事(47歳!)の講演と、
琵琶演奏が印象に残りました。

各地区龍馬会の紹介では、我々もアナウンスし
ていただき、「金沢龍馬会ここにあり!」をアピ
ールしましたが何と言っても3人。25人参加の
お隣福井にちょっぴり悔しい気持ちもいたしまし
た。来年はもっと多くの方と参加できるといいで
すね!

そして午後6時過ぎ、場所をパシフィコに移し
ての懇親会では多くの方と酒を酌み交わし、また

の再開を約束しました。午後8時半頃に全ての
日程を終了。初参加はあっと言う間の一日でした。

来年の高知大会は龍馬生誕180周年、開催日も
龍馬の誕生日前夜です。桂浜での懇親会を企画して
いるそうで今から来年が楽しみです!

「報告：周藤英将さん」

【花見会のお知らせ】

現在、下記のいずれかの日程で検討中です。



4/11(土)、4/4(土)、4/25(土)

【会員のつばやき】

“私と金沢龍馬会”

佐藤正樹



学生時代に出会った司馬遼太
郎の小説「竜馬がゆく」全8巻、
読み終えた時の感動を今も忘れ
ません。作家の創作の世界がある
にせよ、この小説で龍馬の残した
功績を知り、人望と行動力にあこ
がれ、もっと龍馬を知ろうと思い
ました。

電車を乗り継ぎ、高知桂浜に青年達の寄附金に
より建設された龍馬像の前に立ったあの時が、私
の龍馬ファンの原点です。

その後、訪ねた長崎では、亀山社中跡へ続く道
が「龍馬通り」と呼ばれ、ここでも龍馬は地元の
人々に親しまれている事を知りました。

機会があると、京都霊山へ足を運び、同じ土佐
出身の盟友 中岡慎太郎の墓と並び、線香がたえる
事がない龍馬のお墓に手を合せます。

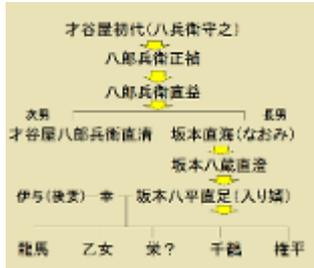
龍馬の足跡をたどる度、全国至る所に龍馬ファ
ンや龍馬信者が多いのに驚きます。土佐藩郷土の
次男として生まれ、一介の浪人であった龍馬が、
激動の幕末の時代に藩の枠を超え、その行動力と
独創力で全国を駆け巡り維新の扉を開きました。

金沢龍馬会は、多くの人々の心を引きつける龍馬
の熱い生き方に感銘を受けた石川の仲間が集い、
講演、交流、勉強、そして、時に龍馬を肴に酒を
酌み交す楽しみな会です。

「まるわかり」龍馬入門講座 ②

これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

⑥坂本龍馬は、1835年に坂本八平の次男として高知城下に生まれました。龍馬は通称で本名は直陰、後に直柔となります。母親が「雲龍奔馬(うんりゅうほんば)」の夢を見て懐胎したといわれ、背中にたてがみのような毛が生えていたとされています。龍馬の名も、そこに由来しています。坂本龍馬の先祖は明智光秀の子孫とも言われていますが、五代前までしかルーツはたどれません。



坂本家は城下の豪商である才谷屋の分家で土佐藩郷土を務めていました。龍馬の変名「才谷梅太郎」はここからとっています。母親の幸は高齢出産だったため授乳や養育は乳母が世話をしました。三人の姉がおり、特にすぐ上の乙女は堂々たる体格で武術、学問、遊芸に優れ、龍馬を鍛えたとされます。

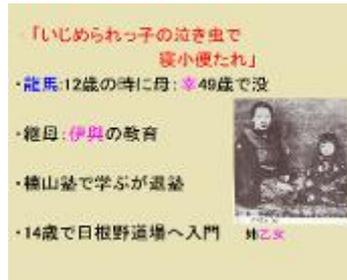
⑦才谷屋三代目直益が長男の直海(なおみ)を分家1770年坂本としました。後に郷土株を取得(1771年とも1784年)しました。直海分家の時の財産分与。現銀30貫目(30億円強)。加地子(かじし年貢)=領地40石。直足の時代は161石とされています。

⑧そんな環境の中で、少年時代の龍馬はいじめられっ子の泣き虫で、よく寝小便したと言います。夜尿症はストレスに関係ありといえます。過保護過ぎて依頼心の強い甘えた子になったのでしょうか。

外へ出ると甘えがきかず保護してもらえないので虚弱体質の上にいじめられ、自己嫌悪に陥り、泣きながら家に帰ったことでしょう。12歳で学んだ楠山塾(なんざんじゅく、くすやまじゅく)です。しかし喧嘩が原因でやめます。少年期の龍馬は自分の弱さを持て余していたのだと思います。

父の後妻：伊与も龍馬の少年期に多大な影響を与えたと言われます。継母の伊与の二回目の嫁ぎ先は藩の御蔵役の廻船問屋で、乙女と共にたびたび訪れては長崎や下関からの土産話を聞いたといえます。世界地図や数々の輸入品を見て海外の知識を広め視野が広がったのでしょうか。

14歳で日根野弁治(ひねのべんじ)道場へ入門します。これを機に龍馬は逞しくなります。



いつも、喧嘩や試合で負けていた龍馬が、ある時期、突然変身して、これまで勝てなかった相手に勝つようになります。それはメキメキ背が高くなり、強くなったからです。

自信を持つことほど怖いものはなく、いつしか剣術修行に出る身となります。

「続く」(記：吉田信夫)

《越前龍馬会年末交流会》

さて昨年12月6日(土)越前龍馬会年末交流会が福井市の苺屋(たばこや)跡である「よしだや」にて行われました。

苺屋は龍馬が暗殺の半月前に越前へ赴き、三岡八郎(後の由利公正)と会見した宿舎です。

交流会には34名が参集しました。内、金沢龍馬会から中城/松岡/山崎/吉田の4名が参加しました。それぞれ自己紹介しましたが、山崎さんの一里野温泉やスキー場が福井でも有名であることに驚かされました。

【新入会員紹介】

88 荒木 弥三郎 89 深堀 正徳

【編集後記】

皆さま、今年もよろしくお願ひします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も2号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。これからも皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。(記：中田俊郎)

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会 長：中川可能作

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.yomakai?sk=wall&filter=2>

